

今号の内容

ページ

- ◆水郷柳川夏の水まつり スイ！水！スイ！ 2～3
- ◆食事バランスガイドで生活習慣病予防 4～7
- ◆よかばんも～バスツアー参加者募集ほか 8～9
- ◆一斉に中学生キャリアウイークを実施 10
- ◆都市計画街路変更のお知らせ 11

◆市民のひろば (12-13) ◆川柳 (13) ◆図書館・水の郷ニユース、柳川百選まち歩き (14-15) ◆情報わいど (16-22) ◆がんばったね・ぬくもり (23-24) ◆もちふみデビュー (25) ◆保健ガイド (26-27) ◆新市史抄片 (28)

新市史抄片

三忠苑の楷樹

78

問い合わせ
市生涯学習課市史編さん係 (☎72・1275)



三忠苑 (旭町)



多久聖廟 (佐賀県多久市)

柳川藩の儒学者安東省菴の墓が旭町の浄華寺にある。まわりには安東家歴代の墓や門弟の墓もあり、昭和五十三年に安東省菴顕彰会によって三忠苑として整備されている。ここに、知る人ぞ知る銘木の楷樹が植えられており、立札には、「楷樹 中国原産の漆科の落葉高木。別名、トネリバハゼノキ。中国では、子貢が山東省曲阜にある師の孔子廟に、手づから植えた」と伝えられる有名な木である。(略) 贈 会津藩校日新館 平成元年十一月廿三日 安東省菴顕彰会 植樹」と書かれている。

楷樹は、孔子と縁が深く、孔子木とも学問の聖木ともいわれ、材は堅く、科挙の進士に合格した者に与える笏をつくり、楷杖として暴力を戒める杖に用い、楷書の語源にもなった銘木である。

この木がわが国に持ち込まれたのは大正四年のことで、農商務省林業試験場の初代場長白沢保美博士が、山東省曲阜の孔子墓に植えられていた楷樹の種を持ち帰り、播種・育苗したと言われている。白沢博士によって育成された苗木は、儒学や漢学などを学ぶ人達により全国各地の孔子廟や聖堂に植えられ、湯島聖堂(東京都・足利学校(栃木県足利市)・関谷学校(岡山県備前市)・佐賀の多久聖廟・熊本大学付属病院などは、いづれも由緒正しき苗から育てられたものという。白沢博士以後、戦前までに数回持ち込まれており、その苗木の嫁ぎ先もほぼ確かめられる。

昭和三十八年には、春及園(横浜市)の雄木と金沢文庫(横浜市)の雌木とを人工交配し、第二世代の楷樹が生まれるようになった。最近では種を輸入し苗木を育てている所もあり、また第三、第四世代の楷樹も育ち各地に楷樹が増えているが、戸籍不明の楷樹が増えることを危惧する声もある(服部正昭「孔子ゆかりの樹木(楷・杏)について」)。

福岡では、三忠苑の楷樹が会津日新館から、能古島の亀陽文庫の楷樹は多久聖廟から、九州大学法文キャンパスの楷樹は大学を訪れた孔子第七十五世孔祥林氏から贈られた苗木から育てられたものである。

楷樹はハゼの仲間であり、秋の紅葉は見事で、とくに岡山関谷学校の楷樹は全国から多くの観光客を集めている。多久聖廟の楷樹の紅葉は九州では随一であろう。三忠苑の楷樹は、電線に気遣いしてか、大枝が大きく切れられ、不格好な姿をさらし哀れである。三忠苑の楷樹が、その大樹と見事な紅葉とで知られる日が来ることを望みたい。

市史編集委員 錦織亮介

編集後記

●長男が宮崎の大学から原付バイクで帰省した。途中、延岡と竹田の友達の家に泊まり、2泊3日の旅を楽しんだ様子。親としては、先方の迷惑になつていないか、事故に遭っていないかなど心配させられた。一方で、学生の特権、贅沢に時間を使える長男に、うらやましさを覚えた。

●よかばんもく体験のイス作りに取材も兼ねて子どもも参加。同じように家族での参加が多く、使い慣れない金づちやドライバーを手に悪戦苦闘しながらイスを作る児童がほとんど。今は大人も工具を満足に使えない人が多いとか。我が子からバカにされないよう日曜大工始めろか。(賢治)

●飼っている愛犬が今年で16歳を迎える。すっかり年老いてしまい、耳が遠く、目も悪い。呼び掛けても反応せず、散歩に行けばよつとした段差でこける。人間のようにいびきをかいて寝るし、遊んでやろうとボールを投げてても無関心。だが、そんな姿がかわいくて仕方ない。(和久)

人のうごき

- 人口 71,813 人 (前月比-18)
- 男 34,023 人 (+6)
- 女 37,790 人 (-24)
- 出生 44 人、死亡 67 人
- 転入 137 人、転出 132 人
- 世帯数 24,561 世帯 (+8)

平成23年7月末現在

子鬼になって盆でん縄

三橋町木元地区で100年以上も続くお盆の伝統行事、盆でん縄が8月15日にありました。この行事は、地獄の亡者に大縄をつかませて、せめてお盆の間だけでも救おうというもの。この日の朝、天満神社に集まった21人の小中学生は、思い思いに絵の具で体に絵を描き、わらで作った冠や腰みのを付けて地獄の鬼に変身。ワッショイ、ワッショイの掛け声をあげ、地区内を一周しました。

